

「鯨」という字があります。漢字を学んだ子どもがこの字を見れば、当然「魚」の仲間だと思います。でも鯨は魚類ではなく哺乳類ですから、かえって誤解を生ずるのではないかと心配される方がいるかもしれません。

しかし、そんな心配は必要ありません。鯨は海に生息していますので、元来魚の仲間だと思われていて、この字がつけられたのです。ですから、もし「鯨は魚の仲間だね」と言ったとしたら、「魚」の概念を捕らえているのですから、むしろ褒めてやるべきなのです。

そして、その後でこんな話をしてあげましょう。

昔は魚の仲間だと思われていたんだけど、今ではそうでないことがわかったんだ。魚はとてたくさん卵を生んで、その卵から出て来た魚の赤ちゃんは、自分たちの力で大きくなるんだよ。でも鯨は卵ではなくて、牛や馬と同じように赤ちゃんを産んで、お母さんがオッパイを飲ませて育てるんだよ。だから牛や馬と同じ仲間だということになるんだ」

こうすると鯨という字がきっかけとなって、かえって新しい認識が生まれてくるのです。こうして得た知識というのは、しっかりと身につくものなのです。

ポイント: 難産とか事故とかで小さいときから脳に障害がある場合は、よけい早くから言葉をかけてあげなくてはダメなのです。多少脳に障害があっても、全体が障害に冒されていることはないわけですから、声をかければ健全な部分の脳はどんどん受け取って、頭が回転していきます。頭が働いてくると目の輝きも変わってくるのです。正常な子どもにも負けない学習能力も身につきます。